

番号	名称	解説	年代
	Ⅱ 構成要素	このセクションでは、和書がどのような内容から成り立っているかという観点から、和書を内容的に構成するさまざまな要素について解説します。	
	(1) 和書の内容構成 表紙記載・見返し記載・扉記載・序・目録・本文・跋・奥書・刊記・広告 書き入れ・付箋・貼り紙・識語・所蔵署名・蔵書印・整理記号・整理番号	※展示パネル参照	
	(2) 書名 (題記)	和書の多くには、書名 (題記) が記載されています。それらは表紙にあるもの (外題) と、本の内部にあるもの (内題) に大別され、内題はその位置によってさらに区別されます。	
	外題	表紙にある書名を外題と言います。これに対し、本の内部にある書名が内題です。外題は、題簽を用いる場合と、表紙に直接記載する場合があります。	
	打付書き外題	表紙に直接書かれた外題を、打付書き外題と言う。和書では古くは題簽を使わず、表紙に打付書きされていた。一般に題簽を用いるようになったのは、室町時代頃以降と見られる。	
	書き題簽	外題や巻冊の順を記載するため、表紙に貼る細長い紙片や布片が題簽で、そのうち、文字が筆で書かれたものを書き題簽と言う。写本は普通書き題簽である。	
	刷り題簽	題簽のうち、文字が印刷されたものを刷り題簽と言う。主として版本に用いられるが、稀に書肆によって製作された写本に使われることもある。	
	絵題簽	題簽のうち、書名のほかにその本の内容に関わる絵が描かれたものを絵題簽と言う。江戸中期以降、草双紙類に多用された。	
	刷り外題	表紙に直接印刷された外題を、刷り外題と言う。文字だけのものと、題簽にしばしば見られるように枠で囲んだものがある。丁数の少ない、簡素な本によく用いられた。	
	見返し題	内題の一種で、前見返しにあるものです。写本や江戸時代以前の古版本には普通ありません。	
	扉題	内題の一種で、扉にあるものです。	
	序題	内題の一種で、序の冒頭にあるものです。「(書名) 序」という形になっているのが一般的です。	
	目録題	内題の一種で、目録の冒頭にあるものです。「(書名) 目録」という形になっているのが一般的です。	
	巻首題	内題の一種で、本文の冒頭にあるものです。狭義では、この巻首題を内題と呼ぶことも多くあります。	
	柱題 (版心書名)	冊子本の版本の版心部分 (柱) にあるもので、しばしば柱題と呼ばれますが、正式な題記ではなく書名の略称の場合も多いので、版心書名と呼ぶのが穏当です。	

番号	名称	解説	年代
	尾題	内題の一種で、本文の末尾にあるものです。「(書名)終」という形になっていることがしばしばあります。	
	跋題	内題の一種で、跋の冒頭にあるものです。「(書名)跋」という形になっているのが一般的です。	
	小口書	下小口に書かれた記事です。所蔵者が整理保管の便宜上、書名や巻次などを記入したものが大半ですが、それ以外の情報が書かれることもあります。	
	(3) 序・跋	和書には、しばしば序や跋があります。著編者自身によるものと他人によるものがあり、著作の成立などについて重要な情報を提供することが稀ではありません。	
	序	前書きに当たります。著者自身や著者と縁のある人によって書かれることが多いですが、名家が依頼されて執筆したり、古い著作を刊行する際などに、後人によって書かれる場合もあります。	
	跋	後書きに当たります。序と同様、著編者自身や縁のある人、後人などによって書かれます。「後序」と題することもあります。	
	(4) 本文	和書の内容のうち、最も重要なものが本文です。本文以外の要素はなくても書物として成り立ちますが、本文を欠く書物はありません。	
	本文	著作の中心部分です。文字のほか、絵を含むこともあり、時には絵図だけから成ることもあります。注釈に対する本文という、狭義の用法とは異なります。	
	目録	その著作の章節名や項目名等を列記したものです。複数の巻から成る著作では、巻ごとに記載する場合と、初めに全巻の分をまとめて載せる場合があります。	
	著作注記	主に巻首題の下や脇にある、著者名や著作の成立に関する記事です。著者自身の記したものと、後人の記したものの両方を含みます。	
	(5) 奥書と識語	写本において、末尾に書写の年月日や書写者の名などを記したものが奥書で、写本に特有のものです。識語は、所蔵者などがその本や著作について書き入れた言葉で、写本にも版本にもあります。	
	奥書	写本を書写した人が、年月日や名前、書写の事情などを末尾に記したものです。本奥書と書写奥書の別があります(Ⅳの(2)を参照してください)。	
	識語	本の所蔵者などが、その本や著作について書き入れた言葉です。奥書と同様本の末尾に書かれるほか、冒頭部や途中の余白に書かれることもあります。	
	(6) 刊記と広告	版本において、刊行の年月日や版元名などを記載したものが刊記です。末尾のほか、前見返しなどにあることもあります。広告は、版元による出版物の宣伝です。	
	本体部分末尾の刊記	刊記のうち、本体部分の末尾に記載されているものです。冊子本では、最後の丁に余白があればそこに記載されるのが一般的です。	
	後見返しの刊記	冊子本で、後見返しを使って刊記を記載しているものです。この形の刊記を、特に奥付と言うこともあります。	

番号	名称	解説	年代
	蔵版記・蔵版印	広義の刊記の一種ですが、蔵版者（出版権を持つ者）を記したものです。蔵版者は、藩や寺社・家塾などが多く見られます。印記になっているものは、蔵版印と言います。	
	広告	版元による、既刊や近刊の出版物の宣伝です。通常は冊の末尾にあり、刊記に並んでいるもの、独立の丁になっているもの、見返しに貼り込まれているものなどがあります。	
	(7) 書き入れ・付箋・貼り紙	読者が、注記や覚書などを本に直接書き込んだり、別紙に書いて貼り付けることがあり、前者を書き入れ、後者を付箋または貼り紙と言います。	
	書き入れ	漢文に訓点を付けたり、行間や欄外などに注釈・補記・覚書などを書き込んだものです。当該の本に固有のもののほか、親本や別の本から書き写すこともあります。なお卷子本や折本の紙背に書かれたものは、特に裏書と言います。	
	裏書	卷子本・折本などにおいて、裏面（紙背）に記入された注釈や補記の類。原則として、対象となる言葉や記事の裏の位置に書かれる。	
	付箋・貼り紙	注釈や補記などを、直接本に書くのではなく、別の紙片に書いて貼り付けたものです。	
	(8) 所蔵者情報	和書には、所蔵者が印を捺したり、署名を記すことがしばしばあります。これらは、その本がどこで写されたか、またどのように伝わって来たかを知るための重要な手掛かりとなります。	
	所蔵署名	所蔵者が、その所蔵であることを示すために本に記した署名です。	
	蔵書印	所蔵者が、その所蔵であることを示すために本に捺した印です。同じ所蔵者が複数の蔵書印を使用することも珍しくありません。	